

呉竹医療専門学校

自己点検・自己評価表（平成27年4月1日現在）

1. 学校の教育目標

全人的医療を施す事ができる医療人を育成するために、卒前・卒後を一貫した教育体系として捉え、教育施設並びに附設する医療施設を有機的に活用しながら、東西医療への理解を深めると同時に医療実践能力を修得する完結的教育を施していく。また、知識・技術の習得と併せて人格形成の教育にも力を注いでいくことを本校の教育目標とする。

2. 本年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画

- ① 鍼灸マッサージ科・鍼灸科における学則変更について継続して検討する。
- ② 学生の質の低下を把握し、適切な教育内容及び教育方法を開発する。
- ③ 学生の学力低下を補完する目的で、特に基礎分野の教育内容を再編する。
- ④ 国家試験出題傾向の変化の分析と変化に対応した教育課程の編成に着手する。
- ⑤ 学生による授業評価を行うとともに、授業内容の適正化及び平準化を目的として熟練教員による授業評価を実施する。
- ⑥ 教職員の質を担保するため、自主的なFD活動・SD活動を推進する。
- ⑦ 学校説明会の運営について、外部コンサルの指導を受け、受験率の向上を図る。
- ⑧ インターンシップアドバンスコース実施に向けて準備を行う。
- ⑨ 学籍管理システム・図書システムの更新を含むメンテナンスの検討を行う。
- ⑩ 組織整備に伴い必要となる規程の作成を行う。

3. 評価項目の達成及び取組状況

(1) 教育理念・目標

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3、 やや不適切…2、不適切…1			
・理念・目的・育成人材像は定められているか (専門分野の特性が明確になっているか)	④	3	2	1
・学校における職業教育の特色は何か	④	3	2	1
・社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか	④	3	2	1
・理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが生徒・保護者に周知されているか	④	3	2	1
・各学科の教育目標、育成人材像は、学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか	④	3	2	1

① 課題

教育の評価が社会的成果を求めようになっていることから、そうしたアウトカム基盤型教育について検討する。

基礎学力が不足している学生に対する入学前・後における教育プログラムを検討する。

② 今後の改善方策

見直しされた育成人材像や教育方針を教育活動に反映させると共に、ホームページや学校説明会・保護者会等を通じて周知を図る。

③ 特記事項

平成 26 年度より設置する全課程において職業実践専門課程として認可された。

(2) 学校運営

評価項目	適切… 4、ほぼ適切… 3、 やや不適切… 2、不適切… 1			
・目的等に沿った運営方針が策定されているか	④	3	2	1
・事業計画に沿った運営方針が策定されているか	④	3	2	1
・運営組織や意思決定機能は、規則等において明確化されているか、有効に機能しているか	4	③	2	1
・人事、給与に関する制度は整備されているか	4	3	②	1
・教務・財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか	4	③	2	1
・業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか	④	3	2	1
・教育活動に関する情報公開が適切になされているか	④	3	2	1
・情報システム化等による業務の効率化が図られているか	④	3	2	1

① 課題

職員のほとんどが中途採用であることなどから、人事・給与に関する制度化がしづらいことや、職責についてもこれまでの経験により運用されている。
随時的な採用となることもあり、中長期的な採用計画が必要である。

② 今後の改善方策

給与や人事考課制度の在り方について検討し、学園にとって有効な制度の整備を検討する。
諸規程の整備作業については、本年度末までに教職員への周知を徹底し、来年度より運用できるように準備を行う。

③ 特記事項

職責階層が少なく、これまでの経験の中から判断される事項が多く、人事制度に関する取り組みが一般企業に比べなされていない。

(3) 教育活動

評価項目	適切… 4、ほぼ適切… 3、 やや不適切… 2、不適切… 1			
・教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか	④	3	2	1
・教育理念、育成人材像や業界ニーズを踏まえた教育機関としての修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	④	3	2	1
・学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	④	3	2	1

・キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方針の工夫・開発などが実施されているか	④	3	2	1
・関連分野の企業・関係施設等、業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか	4	③	2	1
・関連分野における実践的な職業教育（産学連携によるインターンシップ、実技・実習等）が体系的に位置づけられているか	4	③	2	1
・授業評価の実施・評価体制はあるか	4	③	2	1
・職業に関する外部関係者からの評価を取り入れているか	④	3	2	1
・成績評価・単位認定の基準は明確になっているか	④	3	2	1
・資格取得の指導體制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	④	3	2	1
・人材育成目標に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか	④	3	2	1
・関連分野における業界との連携において優れた教員（本務・兼務含む）の提供先を確保するなどマネジメントが行われているか	④	3	2	1
・関連分野における先端的知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか	4	③	2	1
・職員の能力開発のための研修等が行われているか	4	③	2	1

① 課題

進級率・卒業率の向上に向けた対策を引き続き行う。

企業連携による実践的キャリア教育を推進する上で、育成人材像に対する到達目標を明確化し、評価が行える教育を目指す。

国家試験の出題傾向の変化を分析し、対策を講ずる。

教育の質を担保するため、教職員教育について組織的にFD・SD活動を推進する。

② 今後の改善方策

学生の質の低下を把握し、適切な教育内容及び教育方法を開発する。

すでに実施している科目の中でも構成内容を見直すなど、職業実践教育における企業連携を強化する。

アウトカム基盤型教育について検討し、国家試験対策を含め、必要なカリキュラム変更の準備を行う。

教授力向上に資するため、ベテラン教員による授業評価を実施するほか、自主的なFD・SD活動に加え、組織的な研修制度の構築を目指す。

③ 特記事項

養成施設指導要領ガイドライン及び指定規則においては、学外学習を正規授業として認められていない。

(4) 学習成果

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3、 やや不適切…2、不適切…1			
・就職率の向上が図られているか	4	③	2	1
・資格取得率の向上が図られているか	④	3	2	1

・退学率の低減が図られているか	4	③	2	1
・卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	4	3	②	1
・卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか	4	3	②	1

① 課題

早期の段階から就職活動を意識するよう、学生への就職支援を拡充する。

身体・就労環境・経済状況の変化等による退学者が減少されておらず、学生相談室の活用を含め、生徒に対するきめ細やかな見守りが必要となる。

② 今後の改善方策

これまでも企業相談会等の開催や企業情報の提示を行っているが、学生個々の進路に関する相談窓口を整備するなど、卒前・卒後を通じた就職支援を行えるよう準備する。

入学生の若年化に伴い、保護者の学業への関心が高まっていることから、保護者会や保護者の個別面談等の機会を増やし、これまで以上に保護者との連携を深める。

③ 特記事項

国家試験後から就職活動を始め始める学生が大半であり、在学中に収集出来る情報も少なく、不十分である。

また、卒業後に実施しているアンケートの回収率が低く、得られる情報も不足するため、同窓会等の活動を通じて卒業生との情報交換が必要である。

(5) 学生支援

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3、 やや不適切…2、不適切…1			
・進路・就職に関する支援体制は整備されているか	4	③	2	1
・学生相談に関する体制は整備されているか	4	3	②	1
・学生の経済的側面に対する支援体制は整備されているか	④	3	2	1
・学生の健康管理を担う組織体制はあるか	④	3	2	1
・課外活動に対する支援体制は整備されているか	④	3	2	1
・学生の生活環境への支援を行っているか	4	③	2	1
・保護者と適切に連携しているか	4	③	2	1
・卒業生への支援体制はあるか	4	③	2	1
・社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか	④	3	2	1
・高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取り組みが行われているか	④	3	2	1

① 課題

学生相談室の利用者は少なく、心身の相談といった専門性の高い事案に偏重している。学生へ

の周知方法等を工夫し、広く相談のできる窓口として運営する。

就職支援を担当する専任の人員を配置し、分担としていた情報収集や情報管理を行い、キャリア教育と就職支援活動を強化する。

② 今後の改善方策

学生相談に対する対応として、学校心理士等との連携を強化し、事例研究や外部研修を通して、担当職員の専門性の向上に努める。

就職に関する担当者を配置し、求人情報や学生相談の窓口を設けるよう準備する。

保護者会に不参加となった保護者に対して資料を郵送するなど、積極的な情報公開と情報の共有を図る。

③ 特記事項

生活指導や就学環境の指導において、保護者との連携が不可欠であり、保護者会への参加率も年々増加傾向にあり、学業に対する具体的相談も多く、関心の高さが伺える。

(6) 教育環境

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3、 やや不適切…2、不適切…1			
・施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	④	3	2	1
・学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか	4	③	2	1
・防災に対する体制は整備されているか	④	3	2	1

① 課題

多くの生徒がインターンシップ等、学外における体験実習を通じて勉学や就職活動に生かせるよう協力いただける事業所数の確保など連携を深める。

防災訓練を通して教職員における非常時の具体的行動マニュアルの周知徹底を図り、訓練に生かす。

② 今後の改善方策

施設・設備の整備については、築10年を目標に建築診断を行い、中・長期修繕計画を作成する。

③ 特記事項

なし

(7) 学生の受入れ募集

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3、 やや不適切…2、不適切…1			
・学生募集活動は、適正に行われているか	④	3	2	1
・学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか	④	3	2	1
・学納金は妥当なものとなっているか	④	3	2	1

① 課題

平成 27 年度入学生にあっては、高校生・社会人共に応募者の前年比増減は無かったが、社会人については減少止まりとなっているため、引き続き社会人に向けた募集活動の強化が必要である。

② 今後の改善方策

高校生に向けては、これまでと同様に高等学校との連携を深め、専門職種の啓発活動として高校 1、2 年生向けのキャリア教育に積極的に参加する。

一方、社会人へ向けとしては、平成 26 年度より実施した夜間説明会への参加者及び受験率が高かったことから、年間を通じて実施することとした。また、平成 26 年度より施行された専門実践教育訓練給付金制度の利用を希望する応募者が多くあったことから、指定講座となっていない鍼灸科 I 部、柔道整復科 I 部について指定条件を満たすよう努力する。

学校説明会等の運営にあっては、外部コンサルの指導などから改善し、来校者数の増加・来校者の受験率の向上に向けて取り組む。

在校生及び卒業生に対する他科への再入学における助成を拡充する。特にⅡ部への再入学を促進するため、通算 1 年間の授業料を免除するなど大幅に拡充することとした。

③ 特記事項

学納金については、創立後 2 年間の学生募集の状況と地域性を鑑み、30 万円の減額を行っている。

(8) 財務

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3、 やや不適切…2、不適切…1			
・中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	④	3	2	1
・予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	④	3	2	1
・財務について会計監査が適正におこなわれているか	④	3	2	1
・財務情報公開の体制整備はできているか	④	3	2	1

① 課題

財務基盤は学生生徒納付金比率が 9 割を占めており、広報活動など学生募集と併せ、中途退学者対策が必要である。

② 今後の改善方策

安定的な学校経営に必要な定員確保は見込めているが、定員に満たない課程における学生募集について一層の努力を行う。一方、呉竹メディカルクリニックの経営改善に向けて引き続き検討・努力する。

③ 特記事項

18 歳人口の減少や大学進学指向の高まりから専門学校への進学者は減少傾向にある。

また、設置規制緩和による同種養成施設の増加に伴い、各校において常態的に定員割れが見られるなど、学生募集の確保は非常に厳しくなっている。

(9) 法令等の遵守

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3、 やや不適切…2、不適切…1			
・法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	4	③	2	1
・個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	4	③	2	1
・自己評価の実施と問題点の改善に努めているか	④	3	2	1
・自己評価結果を公開しているか	④	3	2	1

① 課題

法令遵守にあつては、教職員間において周知徹底を図り、継続的な教育・訓練等を通じて適切に機能する組織作りが必要である。

② 今後の改善方策

学園内コンプライアンス委員会により各校における情報の共有、周知徹底を図り、必要な啓発活動を行う。

自己点検・自己評価については、中長期事業計画を意識した当該年度計画実行における点検・評価を行い、PDCAサイクルの実行を行う。

③ 特記事項

平成25年度より学校関係者評価委員会を設置し、平成26年度においては委員全員が留任された。

(10) 社会貢献・地域貢献

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3、 やや不適切…2、不適切…1			
・学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	4	③	2	1
・生徒のボランティア活動を奨励、支援しているか	4	3	②	1
・地域に対する公開講座・教育訓練（公共職業訓練等）の受託等を積極的に実施しているか	④	3	2	1

① 課題

学生のボランティア活動にあつてはすべてが課外活動となり、大学等に比べ休日日数も少ないなど活動しづらい環境といえる。しかしながらその社会的意義は十分理解するものであるため、学生生活指導の中で支援出来ることを検討する。

② 今後の改善方策

学生ボランティアの活動状況を把握できるよう努め、学生生活と社会貢献が両立できるよう指導を行う。

施設利用については、各教育機関、関連団体、地域との連携・交流を目的として、可能な限り教育資源・施設の活用を受入れ、広く社会・地域に貢献する。

③ 特記事項

本校では月曜日から土曜日まで昼夜の時間帯で授業を行うほか、休日は学校行事・施設メンテナンスに当てているため、施設開放が可能となる日程が少ない状況にある。

(11) 国際交流

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3、 やや不適切…2、不適切…1			
・留学生の受入れ・派遣について戦略を持って国際交流を行っているか	4	3	2	①
・受入れ・派遣、在籍管理等において適切な手続き等がとられているか	4	3	2	①
・学習成果が国内外で評価される取り組みを行っているか	4	3	2	①
・学内で適切な体制が整備されているか	4	3	2	①

① 課題

留学生受け入れ等、国際交流に関して、適切な体制作りはなされていない。

② 今後の改善方策

養成施設として留学生に関する特別な措置が無いため、現在のところ対策について検討していない。

③ 特記事項

留学生を受け入れる特別な教育課程がないため、現在、留学生は在籍していない。

4. 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

(1) 教育理念・目標

開校6年を経て、社会ニーズの変化や関連業界を取り巻く環境の変化などに鑑み、教育理念・目的・育成人材像について改めて見直し作業を行い、鍼灸科・柔道整復科の教育方針として明文化した。見直された理念・目的・育成人材像については教職員間において周知すると共に学生ハンドブックやホームページに公開するなどから、学生・保護者に対しても周知を図っております。今後も学生・保護者など広く学校関係者に対して、本校の教育理念・目的・育成人材像を正しくお伝えできるよう学校案内等の情報整理や学校説明会・保護者会等を通じて周知を進めて参ります。また、新たな職業教育の在り方として本校は設置する全課程において職業実践専門課程の認可を取得致しました。企業連携による学内・学外における実習の在り方を検討し、より実践的な職業教育に努めます。

さらに、教育への評価が社会的成果を求めようになっている事を捉え、本校でもこうしたアウトカム基盤型教育に向けた検討を開始し、今後の教育課程編成に活かしたいと考えております。

(2) 学校運営

学校運営にあつては、学校の目的、目標に基づき明確な方針を定め、この方針に沿った事業計画を策定しております。

本校は学園組織の中で教育部門に位置づけられており、校長は学校を統括し、事業計画の策定とその運営については、定期的な所属長会・教務会議等により決定し運営しております。

教職員の人事・労務管理は法人組織の中で管理部門が統括し、各校で行っております。法人全体の中で適材適所の人事配置を行うと共に、養成施設設置基準に囚われることなく、目標達成のため必要な人材を確保しています。

本年度の事業計画に組み入れたそれぞれの事業の滞りのない業務遂行を行うとともに、課題とした取り組みに対しPDCAサイクルが機能するよう業務管理を徹底いたします。

本校では情報公開ガイドラインに基づきホームページを刷新し、学校情報の内容を充実させた他、SNSを利用した情報提供を始めております。

(3) 教育活動

本校は、はり師、きゅう師、あん摩マッサージ指圧師、柔道整復師として社会に貢献する医療人を育成することを目標としております。

そのため、臨床力を重視した実践的授業と企業連携による専門性のある選択授業を提供する独自のカリキュラムにより教育を行っております。カリキュラムは段階的に修得する内容となっており、各科目はより教育効果を得る時期に配置しています。

各科目においてはシラバスを作成し、教育達成レベルを表記し、その進捗を管理し、その習熟度において不足がある場合には、補習等を実施するなど教育目標の達成に努めております。しかしながら、授業について来れないなど、学力不足から中途退学するといったケースは少なからずあることから、教育内容や教育方法の見直しについても検討して参ります。

平成26年度はプレ実施を含み、本校におけるインターンシップ制度を開始いたしました。引き続き実施を予定するアドバンスコースに向けて準備を行い、インターンシップ制度の総括を行います。

これまで実施してきた学生による授業評価に加え、本年度より教員による授業評価を実施し、教員へフィードバックすることで質の高い授業評価の体制作りを努めます。

(4) 学習成果

本校では、大宮公共職業安定所において無料職業紹介事業を届け出ており、企業から寄せられる求人情報の整理・掲示を行い求職希望者への紹介を行っております。寄せられる求人数は年々増加をしており、本年度はこれまで12月に実施してきた就職相談会に加え、国家試験まで就職活動を行わない学生も多くいることへの配慮から3月にも実施いたしました。就学中より定期的実施しているアンケート調査を通して、学生の就職状況の推移を把握できるようになり、これを利用してスムーズな就職支援が実現できるように努めます。

本校では、国家試験合格率100%を目標としております。本年度は目標を達成することはできませんでしたが、全国平均を大きく上回る合格率であったことと、昨年度不合格となった者は、本校での聴講制度や学園で実施しているKuretake塾を利用するなどの卒業指導により合格することが出来ました。

また、退学率低減に向けて初年度教育を見直すこととし、早期における中途退学の防止に取り組みます。

(5) 学生支援

本校では、クラス担任（副担任）制により学生対応を行っておりますので、初期における学生相談の窓口にはクラス担任が当たっております。相談内容によっては学業面、心身面、経済面など多岐にわたっており、必要な教職員が加わるなどの対応を行っております。学生相談室の運用を含め、情報の共有や学内FD活動などから専門性の向上に努めております。

学生の就学支援にあっては保護者の方々との連携が不可欠となるため、就学状況を通知するほか保護者会の開催などを通して教育情報の提供や個人面談等を行い、ご理解・ご協力を得るよう努めています。

本年度よりホームページ上において同窓会の活動や卒業生に向けた情報を配信しています。生涯学習として提供する公開講座の開講などを通して卒業生との連携を深めるよう努めます。

（６）教育環境

本校は関係法令に準拠し、教育上必要十分な施設・設備を整備しております。また、学校保健安全法に定める環境衛生基準に係る定期検査も実施、適合を得ております。今後も必要なメンテナンスを行い、環境の保全に努めて参ります。

防災に対する体制は、本校の防災計画に基づき自主防災組織を組織し、定期点検と年２回の避難訓練を実施するなどの安全対策を行っております。教職員並びに学生が防災知識と安全対策を共有できるよう、今後も訓練・研修を継続的に行って参ります。

本校は最新の耐震基準により建築され、設備においてもまだ、改修・整備の時期を迎えておりませんが、築10年を目標に中・長期修繕計画の算定を行う予定です。

（７）学生の受入れ募集

本校では高等学校におけるガイダンスの実施に加え、高等学校におけるキャリア教育にも積極的に参加し、模擬授業への講師派遣や学校見学の受入などを行っております。SNSを利用した学校情報の発信を開始し、年間7回の学校説明会を実施し、1月からは社会人を対象とする夜間のミニ説明会を実施致しました。学校案内など資料を請求される件数や学校説明会等へ来校される人数は、増加していることから、学校説明会や個別相談会における来校者の満足度を高め受験率に向上に向けて努力を致します。

減少傾向にある社会人の受験者確保に向けては、社会人の学び直しを支援する制度として施行された専門実践教育訓練給付制度の指定講座となり、利用者への利便を整備いたしました。また、学内受験による再入学者を支援する助成制度を拡充し、特に夜間課程への再入学者を支援、促進することとしました。

（８）財務

本学園の財務基盤は、これまで安定しております。しかしながら、その収入のほとんどを学生生徒納付金が占めており、学生の定員充足率の増減によって一変してしまう体質といえます。また、入学生の基礎学力低下や若年齢化は中途退学者の増加につながっており、生徒募集の増減に加え退学率の上昇は計画的な学校運営に支障をきたすものであります。

近年では増加した養成施設間での過当競争が行われている中、授業料等の増額による収入増加は見込めません。また、大学進学指向の高まりに伴い、大学における同種養成課程に入学希望者が集中するなど、専修学校における定員確保は非常に厳しい状況にあります。

本学園においても、比較的競合しない課程での定員は確保できているものの、常態的に定員割れとなっている課程も複数ある状況にあり、こうした課程における募集活動を強化するとともに、在学生に向けた学習支援・学生支援に努めます。

一方、経費削減に対する具体的目標を定め、予算の立案、執行を行うなど計画的な学校運営を行って

参ります。

(9) 法令等の遵守

学校運営におけるコンプライアンス体制の確立を目標とし、関係法令、専修学校設置基準並びに養成施設認定規則・指定規則を遵守した運営を行っております。

学園内コンプライアンス委員会が中心となり教職員会や研修会等を通じて周知する環境を整え、教職員への徹底を図るよう努めております。

自己点検・自己評価の結果及び学校関係者評価委員会による報告書を学園ホームページにおいて公開するなど、ガイドラインに沿った積極的な情報公開に努め、学校としての取り組み状況を広くご理解いただけるよう情報の公開を実施して参ります。

今後、自己点検・自己評価における評価に加え、客観的な第三者による学校評価の実施に向けて準備を行います。

(10) 社会貢献・地域貢献

関連する学校、学会、業界団体、地域コミュニティとの連携・交流を深めることが出来るよう、努力しております。

具体的には、

1. 学校協会各委員会活動への教職員の派遣
2. 学会運営への教職員の派遣
3. 地域の鍼灸師・あん摩マッサージ指圧師・柔道整復師への生涯研修として公開講座の開設
4. 通信制高校の対面授業（スクーリング）の受入
5. 関係団体（業界団体他）への施設開放
6. 地域住民への健康教室の開催
7. 柔道指導を通じた青少年育成活動（呉竹キッズ柔道クラブの運営）

こうした活動を通して、東洋医療の啓発と業界の発展、地域の人々の健康推進と育成活動に努めて参ります。

(11) 国際交流

現在の所、特段の取り組みはしておりません。